

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.108

2008/11/20

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 念願の北部湿原復元完了間近!!!



山門老人会のみなさんによる刈り払い作業 (08/11/01)

2002年3月の試行的北部湿原復元作業開始以来6年目にして、ほぼ完全に林地化していた北部湿原の復元作業が北端部まで到達しました。本会の保全活動の中でも画期的なことです。この間山門老人会・淡海森林クラブ・湖北ロータリークラブ・ローソン緑の基金や来訪団体のボランティア活動、加えて本会会員の汗の結晶です。完全復元には、今少しの作業が残っているとはいえ、後は流路変更を待つのみとなりました。来期には広大な北部湿原が甦ることは間違いのないことと思われます。これで1960年代以前の北部湿



今年の刈り払い作業成果最先端 (08/11/12)

原の状態に景観的には戻ったこととなります。問題は、湿原の生態系がどのように復元していくかのモニタリングが必要になります。

11月15日本会発足以来初めて西浅井町住民対象ハイキングを西浅井町と共催で実施しました。各種観察会に既に参加してもらった住民の方はおられるものの、地域の方々への周知が今一ということで実施しました。30名ほどの参加でしたが地域の財産である生物多様性に富む「山門水源の森」の凄さと次代へ引き継ぐことの重要性を再確認して頂きました。来期も別のシーズンに開催する必要性を感じました。



PHOTO BY T.ITO

今西浅井町住民対象ハイキング (08/11/15)





エコツアー同行取材(右端)(08/11/14)

湖北ロータリークラブの皆さんが、北部湿原復元作業を計画して頂きましたが、生憎の降雨で作業は実施出来ませんでした。「やまかど・森の楽舎」でこれまでの保全活動に進捗状況と成果を報告し懇談を行いました。

## 紅葉の進みが早い

例年 11 月末でも十分紅葉を楽しめたのだが、温暖化の影響かどうかは不明だが、今年の紅葉は 1 週間前後早まっている。

今年も各種団体・研究機関・大学の視察、研修や出前講座等が続いていますが 11 月 14 日には、日本自然保護協会の「自然保護」編集長「エコツアー」同行取材がありました。当日は小人数のガイド依頼があり伊藤会員が案内しました。取材後の彼女の感想は、予想以上に環境保全に関わる解説が多いことと、現地の実情を熟知した解説は素晴らしかったとの評でした。近々『自然保護』に取材記事が掲載される予定です。11 月 16 日日本会発足以来支援を頂いている「滋賀



湖北ロータリークラブのみなさん(08/11/16)



2007 年の北部湿原 (07/11/17)



今年の北部湿原 (08/11/17)

## 食物連鎖各種

生物多様性に富む「山門水源の森」なのだが、この森で生物の営みを実感できるフィールドであることがまた重要である。



スッポンタケ (08/11/05)



ハエは胞子の運び屋 (08/11/17)



襲われたアオバト (08/10/31)



ノウサギの遺体 (08/11/15)



食い残された胃袋 (08/11/17)



残ったのは羽のみ (08/11/05)

残酷に見えてもこれが自然界の姿で、それぞれの場面に意味があるのがおもしろい。